

機関番号：32614

研究種目：基盤研究(B)

研究期間：2008～2010

課題番号：20320014

研究課題名(和文) 世論調査による日本人の宗教性の調査研究

研究課題名(英文) Research on Japanese Religiosity on Opinion Poll

研究代表者

石井 研士 (ISHII KENJI)

國學院大學・神道文化学部・教授

研究者番号：90176131

研究成果の概要(和文)：

平成20年度に「日本人の宗教意識・宗教行動に関する世論調査」を、平成21年度に「日本人の宗教団体への関与・認知・評価に関する世論調査」を実施した。日本人の「信仰有り」「宗教団体への帰属」は依然として低く、減少傾向にあることが確認された。これまで伝統的な宗教行動として考えられてきたものが実施されなくなる一方、祖先崇拝を中心として神観念も薄れてきている。他方で、近年のパワースポット・ブームなどで、神道(神社)に関するイメージや信頼感は上昇した。

研究成果の概要(英文)：

Two researches, Survey of Japanese Religiosity and Beliefs about Kami(2008) and Survey of Japanese Participation in, Recognition of, and Value Judgements Regarding Japanese Religious Organizations(2009) were done. Answers to "have a faith" and "commitment to religious organizations" were getting fewer than before. Japanese were getting indifferent to traditional religious rituals and beliefs about Kami, especially ancestor worship, were fading away. On the other side, Images and trust on Jinja Shinto were getting better.

交付決定額

(金額単位：円)

| | 直接経費 | 間接経費 | 合計 |
|--------|-----------|-----------|-----------|
| 2008年度 | 2,700,000 | 810,000 | 3,510,000 |
| 2009年度 | 2,500,000 | 750,000 | 3,250,000 |
| 2010年度 | 500,000 | 150,000 | 650,000 |
| 年度 | | | |
| 年度 | | | |
| 総計 | 5,700,000 | 1,710,000 | 7,410,000 |

研究分野：宗教学

科研費の分科・細目：2804

キーワード：宗教意識、宗教行動、世論調査、宗教学、宗教社会学

1. 研究開始当初の背景

日本人の宗教意識・宗教行動に関する持続的もしくは変容を理解するために、定期的に実施される世論調査は重要な意味を持つが、戦後行われてきた調査は、ほとんど新聞社によって行われてきたものか、他の調査に断片的に質問が含まれてきたかであった。

本調査は、こうした状況を解消するために、宗教を専門の研究領域とする研究者による定期的な世論調査の試みである。

2. 研究の目的

本研究は、日本人の宗教意識・宗教行動、お

よび日本人の宗教団体への関与・認知・評価に関する世論調査を実施し、現代日本人の宗教状況を理解するための、基礎的データの収集と開示、分析を行うものである。

(1)世論調査は、平成20年度に「日本人の宗教意識・宗教行動に関する世論調査」を、平成21年度に「日本人の宗教団体への関与・認知・評価に関する世論調査」を実施する。

(2)今回の調査研究は、「日本人の宗教意識・宗教行動」に関しては平成15年に実施されてから5年の2度目、「日本人の宗教団体への関与・認知・評価」に関しては平成11年、平成16年に続いて3度目の調査となる。

(3)こうした調査は、継続的に行われることで、日本人の宗教性の現状と変化を把握するための基礎的データを収集し公開する。

個人的な日常経験の延長線上や、あるいは宗教的な信念を背景に行われる主張は、たとえ膨大な量の調査資料にまさる適格な分析の可能性がないわけではないとしても、学問的な客観性を伴って、研究者間に共有されることはない。一般的に宗教的と認識されている行為や意識に関する調査は、日本人の宗教性を理解するための客観的で基礎的な資料である。

3. 研究の方法

平成20年度、平成21年度に二度の世論調査を実施した。平成20年度は「日本人の宗教意識・神観に関する世論調査」(全12問)、平成21年度は「日本人の宗教団体に対する関与・認知・評価」である。

具体的な世論調査の対象・方法は以下の通りである。

- 1)地域 全国
- 2)調査対象 住民基本台帳による満20歳以上の男女
- 3)標本数 2,000(167地点)
- 4)出方法 層化副次(二段)無作為抽出法
- 5)調査方法 調査員による個別面接聴取法(官製葉書による事前協力状送付)

4. 研究成果

1. 宗教団体への帰属に関する質問、2 宗教意識と宗教行動に関する質問(宗教団体に帰属しているかどうか、自覚的意識的かどうかは別)、3 宗教に対する認知や評価に関する質問の三つの段階を設けて、成果の概略を報告する。

(1)宗教団体への帰属

二度の調査による宗教団体への帰属と帰属教団は表1の通りであった。従来実施されてきた調査結果と同様に、日本人で特定の宗教団体に帰属している者は1割に満たなかった。

表1 宗教団体への帰属(%)

| | 2003年 | 2008年 |
|-----------|-------|-------|
| 入っている →SQ | 8.8 | 6.8 |
| 入っていない | 91.2 | 92.8 |

SQそれはどのような宗教団体か(M.A.)

| | |
|------------|-----------|
| 1.神道 | 4.0(0.4) |
| 2.伝統的な仏教団体 | 17.7(1.6) |
| 3.キリスト教系 | 12.9(1.1) |
| 4.創価学会 | 41.9(3.7) |
| 5.立正佼成会 | 3.2(0.3) |
| 6.天理教 | 4.8(0.4) |
| 7.真如苑 | 4.0(0.4) |
| 8.その他の宗教団体 | 9.7(0.9) |
| 9.わからない | 1.6 |

()は全体に占める割合

(2)信仰の有無

「信仰の有無」の調査結果を示すと表1のようになる。この10年間に行われた調査では、すべて3割を切っている。

表2 信仰の有無(%)

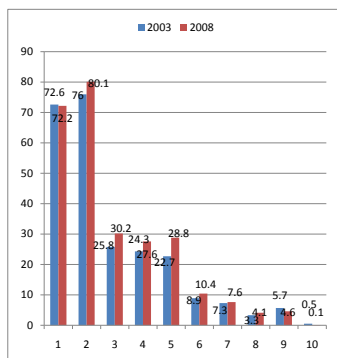
| | 1999年 | 2003年 | 2004年 | 2008年 | 2009年 |
|------|-------|-------|-------|-------|-------|
| 信仰有り | 27.0 | 29.1 | 27.7 | 27.8 | 27.8 |
| 信仰なし | 73.0 | 70.9 | 72.3 | 72.2 | 72.2 |

(3)宗教意識と宗教行動

宗教行動に関しては、初詣やお墓参りなど

一般的に行われているだろうものを選択肢としてあげた。二度実施した調査では、大きな差異は見られなかった。

図1 宗教行動



1. お正月に初詣に出かける
2. お彼岸やお盆にお墓参りに行く
3. お守りやお札などを身につけている
4. 神社や寺などの近くを通りかかったときにはお参りをする
5. 家内安全、商売繁盛、入試合格などの祈祷（きとう）をしに行く
6. 易や占いの記事を読んだり、見てもらう
7. 教典や聖書など宗教に関する記事や本を読む
8. ふだんから座禅、ヨガ、ミサ、修行、お勤め、布教などいずれかをしている
9. どれもしていない、何もしていない
10. わからない

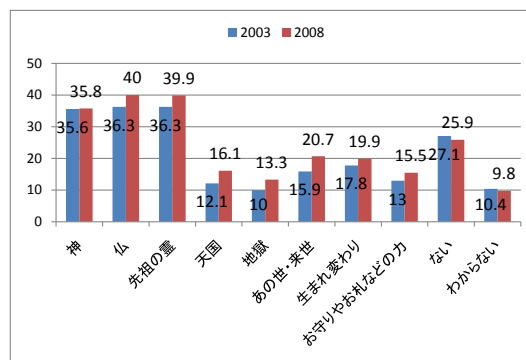
宗教意識に関しては、「神」「仏」「先祖の霊」「天国」「地獄」「来世」「生まれ変わり」「お守りやおふだなどの力」などの存在について尋ねた。

2008年の調査では、すべての肯定回答の割合が2003年より高かった。回答率の高かった選択肢は「神」「仏」「先祖の霊」の三つで、他の選択はおおよそ2割以下であった。

「神が存在すると思う」回答者は35パーセントほどでほとんど変化がなかった。「仏が存在すると思う」回答者の方が二度の調査とも高く、「先祖の霊」とほぼ同率であった。こうした回答率は、宗教行動と比較するとひ

じょうに興味深い。つまり、神棚や仏壇を拝む者の割合とほぼ等しい数値である一方、初詣や墓参りに行く日本人の割合には到底達しないのである。

図2 存在すると思うもの



(4) 宗教団体の認知度

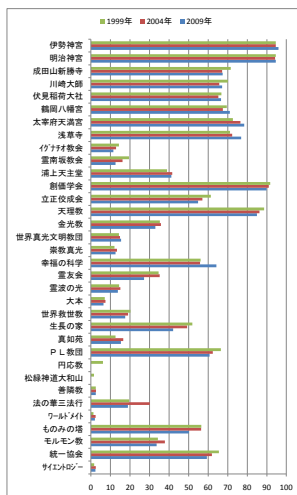
取り上げた教団は、初詣の参拝者が多い社寺、歴史的に著名であったり結婚式で知られているキリスト教の教会、信者数が多いカマスコミでしばしば取り上げられる新宗教団体である。

ひととき認知度の高い一群の団体が見られた。伊勢神宮と明治神宮の認知度は、それぞれ96パーセント、94.6パーセントと、日本人であれば知らない人はいないレベルであった。創価学会(89.9%)と天理教(84.9%)の知名度もひじょうに高い。次に50パーセントを超える知名度の高いグループとして、太宰府天満宮(78.4%)、伏見稲荷大社(66.8%)、鶴岡八幡宮(71.1%)、成田山新勝寺(67.4%)、浅草寺(76.9%)といった伝統教団の他に、立正佼成会(54.8%)、幸福の科学(64.2%)、PL教団(60.7%)、ものみの塔(50.1%)、統一教会(59.3%)をあげることができる。

10年間の変化に着目すると、寺院がどちらかといえば認知度が減少しているのに対して、神社の認知度は増加している。これまで知名度の高かった新宗教団体の認知度が減

少している。10年間で「創価学会」(92%→90%)、「立正佼成会」(61%→55%)、「天理教」(89%→85%)、「PL教団」(67%→61%)、「統一協会」(66%→59%)と減少している。唯一「幸福の科学」だけが56.1パーセントから64.2パーセントへと増加しているが、これは選挙への立候補などメディアによる影響と考えることができる。2001年に巨額詐欺事件で知られることになった法の華三法行は、1999年に19.6パーセントであった割合が、2004年には30.1パーセントへと跳ね上がり、2009年には19.9パーセントに減少した。

図3 宗教団体の認知度



5. 主な発表論文等

(研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線)

[雑誌論文] (計3件)

石井研士、神社神道はどこへ行くのか、皇學館大学神道研究所紀要、査読有、第25輯、2009、23-48

石井研士、変化する日本人の宗教意識と神観、國學院大學紀要、査読有、第48輯、2010、107-119

石井研士、日本人はどれくらい宗教団体を信頼しているのか、東洋学術研究、査読無、第49巻第2号、254-274

石井研士、日本人への宗教団体への関与・認知・評価に関する一考察、査読有、國學院大學大学院紀要、第42輯、2011、167-182

[学会発表] (計1件)

石井研士、統計データから見た近年の日本人の宗教性、日本宗教学会、2010年9月5日、東洋大学

[その他]

ホームページ等

<http://www2.kokugakuin.ac.jp/ishii-rabo>

6. 研究組織

(1) 研究代表者

石井研士 (ISHII KENJI)

國學院大學・神道文化学部・教授

研究者番号：90176131